保健体育科（体育）授業実践紹介

授業者：和氣　徹
学　年：１年
単元名：ソフトボール（男子）

単元のねらい（７つのチカラ：チームワーク力、自分を理解する力、行動する力）

・グループで協力して練習をおこない、チーム力の向上やゲームの運営ができる。
・自分の技術を理解し、スキルアップのために工夫したり、アドバイスができる。

単元の流れとパフォーマンス課題

●２時間連続の授業形態から、前半を練習。後半をゲームとして実施した。

前半：①キャッチボール（ゴロ捕球・フライ捕球などを含めて）
②バッティング（ロングティー）
③守備練習（1 か所ノック・シートノック）

後半：ゲーム（打率、守備回数、ナイスプレー、ＭＶＰ）

①キャッチボール

②バッティング

③ノック

④ゲーム

パフォーマンス課題の評価

■ 体育は２時間連続授業なのでその特徴を生かし、前半を練習中心の活動。後半をゲーム中心で構成するように計画している。

評価はゲームの記録から①打率②守備機会③勝利投手を、試合後の生徒同士の振り返りから④ナイスプレー⑤ＭＶＰを決定し５部門をとして練習の成果を意識できるように評価対象とした。その他にも「声を出して元気にプレー」し、「苦手な人にアドバイス」できるなど記録に残らないところも評価することとした。

単元を通して身につけてほしいこと

運動は仲間と活動するから楽しいので、苦手な人も楽しめるように、多くの人とコミュニケーションを図りながらスキルアップやゲームを楽しんで欲しいと考えています。また、技能面ではバッティングに重視して技術を身に付け、そのことによりスポーツへの関心が高まり、自信もついてくると考えています。

また、得意な生徒の役割や苦手な生徒のやる気を引き出すための工夫として、ルールの簡易化や下図にある評価を生徒に伝えるようにしています。より楽しくできるためにどうしたらよいか。みんなの技術向上のためにはどうすればよいか。試合の運営に必要なものは何かなど、自分以外の仲間に目を向けて、創意工夫するようになってほしいと願っています。

評価

	A	B	C
Ⅰ　関心・意欲・態度	活動意欲が旺盛で、率先してグループを引っ張っている。苦手な人にも的確なアドバイスができる	活動意欲があり、グループの一員として活動できる。苦手な人とも仲良く活動している。	グループの一員としての自覚はあるが、周囲への配慮が足りない時がある。
Ⅱ　思考・判断	練習方法を理解し、スムーズに平等に活動できるように工夫できる。ゲームでも状況に応じた声掛けや判断ができる。	練習方法を理解し、協力して活動ができる。ゲームでも状況に応じた活動ができる。	練習やゲームへの工夫が感じられず、与えられたメニューをこなしてる。
Ⅲ　運動の技能	高い技能が身についており、練習や試合において相手のレベルに応じた技が出せる。	基本的な技能が身についており、練習や試合において技を発揮できる。	基本的な技能が身についておらず、練習や試合で十分に技を出すことが少ない。
Ⅳ 知識・理解	ルールや審判方法を理解しており、試合運営も計画的でスムーズな試合展開ができる。	ルールや審判方法は理解しているが試合運営のやり方が不十分である。	ルールや審判方法の理解が不十分で、人任せにすることがよくある。

上記ルーブリックをもとに、

Ⅰ．関心・意欲・態度（30%）、Ⅱ．思考・判断（20%）、Ⅲ．運動の技能（30%）、Ⅳ．知識・理解(20%)の割合で評価している。